

平成 25 年 8 月 16 日 作成 阿達正浩

平成 25 年 8 月 26 日 修正 阿達正浩

第 10 回日本加速器学会年会インフォーマルミーティング
(ビーム物理研究会世話人会) 議事録 (案)

日時 : 2013 年 8 月 3 日 (土) 12:10 ~ 13:30

会場 : 名古屋大学東山キャンパス 豊田講堂地下 1 階 控室 A

出席者 (順不同・敬称略) :

羽島、渡部、中村、藤田、小方、想田、日出、宮本(篤)、富澤、山本、坂上、紀井、宮本(修)、
小山、庄司、佐々木、高井、宮原、南部、余語、時田、阿達

司会 : 時田

書記 : 阿達、余語

配布資料 :

2013F-1 : 前回議事録

議事内容 :

1. 前回議事録確認
2. 報告・審議事項
 - A. 日本物理学会ビーム物理領域関連
 - B. ビーム物理研究会関連
 - C. 日本加速器学会関連
3. その他

1 前回議事録確認

2013年3月27日に開催された第68回日本物理学会年次大会インフォーマルミーティング(ビーム物理研究会総会)の議事録(配布資料:2013F-1)について内容確認が行われた。時間的な制約から内容の読み上げは省略されたが、意見・コメントはなく、承認された。

2 報告・審議事項

A. 日本物理学会ビーム物理領域関連

[大会関連]

A-1. 今年度大会(秋季・春季)に関して

次回の秋季大会までの主なスケジュールが確認された。次回の秋季大会は、素核宇ビが2013年9月20日から23日まで高知大学朝倉キャンパスで開催され、物性が9月25日から28日まで徳島大学常三島キャンパスで開催される。年次大会は2014年3月27日から30日まで東海大学湘南キャンパスで開催される。重要な締め切り日は次の通り。

秋季大会

- シンポジウム申込〆切(素核宇ビ):4月26日
- シンポジウム申込〆切(物性):5月13日

年次大会

- 合同セッション申込〆切:2013年9月上旬
- 招待・企画・チュートリアル・シンポジウム講演の〆切:2013年11月中旬
- 一般講演の申込〆切:2013年11月下旬

A-2. 2013年秋季大会(高知大学 9/20-23)での合同企画に関して

秋の物理学会で開催される招待講演および企画講演、シンポジウムに関してアナウンスがあった。ビーム物理領域では秋季大会での一般講演を行っていないが、以下の通り多領域との合同企画を開催する

招待講演および企画講演(素核宇1件、物性1件)

- 【招待講演】佐々木茂美氏/広島大学「準周期アンジュレータの設計思想と最近の進展」(領域6との合同企画)
- 【企画講演】森田昭夫氏/KEK「SuperKEKB建設状況」(素粒子実験との合同企画)

シンポジウム(素核宇2件、物性1件)

- 「宇宙プラズマ無衝突衝撃波生成の大型レーザー模擬実験」(領域2との合同企画)
- 「ヒッグスからテラスケールへ」(素粒子実験との合同企画)
- 「次世代高輝度レーザーコンプトン散乱ガンマ線が切り開く展望」(実験核物

理との合同企画)

A-3. 一般講演件数の推移

次回 2014 年大会に向けて、過去 8 年間に於ける春の物理学会での一般講演数の推移、前 2013 年大会における他領域との講演数の比較、2013 年大会における他領域との合同セッション発表件数の内訳が前回総会資料より引用され報告された。一般講演件数には合同セッションを含む講演件数がカウントされる。2012 年大会では 77 件（合同セッションを除くと 70 件）で全領域中最少であったが、2013 年大会では 162 件に増加し最下位から 5 番目まで浮上した。発表件数増加の要因は他領域との合同セッションを多く企画・成立できたことにある。2012 年大会では企画した 5 件のうち 1 件のみが成立したが、2013 年大会では企画した 6 件すべてと +1 件が成立している。2013 年大会に向けては、ビーム物理領域運営委員から他領域運営委員への打診を早めに行うことで企画を早期に立案するとともに、ビーム物理学会のメーリングリストを利用して各合同セッションへの講演申し込みを会員に呼びかける事で合同セッションの成立が実現した。なお、合同セッションを除くと 74 件で全領域中最少件数であったことから、引き続き講演数増加に向けた努力をお願いしたい。

A-4. 招待・企画・シンポジウム講演について

次回 2014 年大会に向けて、2013 年大会において実施した招待講演 2 件、企画講演 3 件、主催合同シンポジウム 2 件、共催合同シンポジウム 2 件を実施したことを報告した。これらの合同企画を実施するにあたっては他領域へのメールでの呼びかけが重要であった。次回 2014 年大会のシンポジウムとしてメールベースで以下 2 件が提案されている。なお、合同企画は随時募集しており、領域運営委員までメールでお知らせ頂きたい。前述の学会への申込締切（11 月中旬）を考えると 10 月中に発表者やテーマなどが決定している必要がある。

- 提案者：大柳氏/ 産総研「次期光源(東北放射光, Ultimate 3GeV ring, ERL, Spring-8II)関連」
- 提案者：上坂氏/ 東大「医学物理・応用関連」

議論・コメント

- 2013 年大会の物理と社会において「医学における物理学の貢献」というテーマのシンポジウムが開催されたがそれとの関係は？
2013 年大会では上記シンポジウムは好評だった。これを受けて 2014 年大会ではビーム物理主催で行ってはどうか考えている。
- 前回総会で SACLA や J-PARC 関連はどうかとの提案があった。
- SACLA と Laser の interaction 関連はどうか？
まだ時期尚早か。次回のシンポジウムテーマとして検討。

A-5. 若手奨励賞について

2013年は平氏（産総研）と時田氏（京大）の2件。毎年応募件数が少ないため積極的に応募するよう呼びかけられた。なお、37歳以下の若手研究者が対象となる。ビーム物理領域としては2名まで授与可能であり、博士論文も審査の対象となる。詳細は研究会 ML や HP (<http://beam-physics.kek.jp/bpc>) を参照頂きたい。

[領域運営関連]

A-6. 次期領域運営委員（2014/4～2015/3）について

現領域運営委員の阿達氏（KEK）の後任として、名古屋大学シンクロトロン光研究センターの山本尚人氏が紹介され、承認された。任期は2014年4月から2015年3月までの1年間。現在の体制は次のとおり。

期間	領域運営委員
2012年4月～2013年3月	高井 良太（アドバイザー）
2012年10月～2013年9月	時田 茂樹（現委員）
2013年4月～2014年3月	阿達 正浩（現委員）
2013年10月～2014年9月	余語 覚文（引き継ぎ中）
2014年4月～2015年3月	山本 尚人

[その他]

A-7. 研究機関の諸委員会委員等の推薦方法について

大阪大学の畦地氏より上坂会長宛に大阪大学エネルギー学研究センターの共同利用専門委員会の委員候補者の選任に関して、日本物理学会ビーム物理領域からの推薦依頼が届いた。このような前例はなく、手続き方法も決まっていないため今回は執行部の方で推薦できないと判断し、その旨を回答した。今後このような依頼に対してどのような手続きをとるべきか議論した。様々な議論・コメントを頂き、当面は執行部内でその都度判断するものとし、次回総会に持ち越して議論を続けるものとした。

議論・コメント

- 他の学会・領域に同様の依頼がなされているのか？
他の学会・領域にも依頼しているものと思われるが把握していない。
- すべて断るか、会長あるいは執行部に判断を委ねるべき。なお、今後同様の依頼に対して会長あるいは執行部に判断を委ねるという事に対してインフォーマルミーティングにおいて承認を得る必要がある。
- 会長の判断でメールなどを使って広く意見を求めたり、会員に推薦してもらえばよいのではないか。
- 今回の推薦依頼に限らず、このような事前に想定できないケースに対して会長あるいは執行役員内で決断するとしてよいという承認をインフォーマルミー

ティングでとってはどうか。

- ビーム物理領域（学会）が、個別の組織の委員を推薦した例は聞かない。学会組織がこのような依頼に対応することは問題ないのだろうか。
- 今回ビーム物理領域代表に直接依頼が来ているようであるが、依頼の経路として問題は無いのだろうか。
- 物理学会を通して依頼が来た場合、どのように対応すべきか議論しなければならないだろう。
- 反社会的な組織の推薦を求められているわけではないのだから、大きな問題はないだろう。

B. ビーム物理研究会関連

[研究会合関連]

B-1. ビーム物理研究会・若手の会の英語表記について

佐々木氏（広大）から、以下の英語表記が提案され承認された。なお、ビーム物理研究（組織名称）は 2009 年の総会で承認を得たものであり、組織名以外は永続的な決定ではないものとした。

- ビーム物理研究会 2013 → Beam Physics Workshop 2013
- ビーム物理若手の会 2013 → Beam Physics Youth Workshop 2013
- ビーム物理研究会（組織） → Japanese Beam Physics Club

B-2. ビーム物理研究会 2013 について

宮本氏（広大）より、今年度ビーム物理研究会の企画状況等について報告がなされた。

- 新竹氏（OIST）、坂上（早大）、紀伊（京都大）、全（京都大）、宮本（広島大）で実行委員を組織し、新竹氏をサポートしながらビーム物理研究会・若手の会を企画している。
- 日程：2013 年 11 月 28 日（木）～ 29 日（金）昼頃（詳細な時間は未定）
- 場所：沖縄科学技術大学院大学（OIST）メインキャンパス セミナールーム B250（収容人数 150 名）
- 招待講演の講師には Keshav Dani 氏（OIST フェムト秒分光法ユニット）と楊金峰氏（大阪大学 産業科学研究所）より内諾を得ている。招待講演は OIST セミナー形式（英語講演）となる。一般講演は日本語で行う予定。要旨は英語で執筆頂く予定。
- 懇親会会場：リザンシーパークホテル谷茶（たんちゃ）ベイを仮予約済みである。
- ビーム物理若手の会の会場となる OIST シーサイドハウスに付属する宿泊施設に最大 36 名（2 人部屋が 18 室）宿泊可能であり、学生向けの宿泊先とす

る。

- 参加者が 36 名を超える場合には近隣のホテルに泊まってもらうことになるが、会場までの公共の交通手段で適当なものが無い。交通手段を含めて出来る限り各自で確保してもらいたい。ジャンボタクシー等を確保するかどうかは実行委員で検討中である。
- 場所が沖縄なので交通費が高くなる可能性がある。

B-3. ビーム物理若手の会 2013 について

宮本氏（広大）より、今年度ビーム物理若手の会の企画状況等について報告がなされた。

- 日程：2013 年 11 月 29 日（金）16:00 頃 ～ 11 月 30 日（土）16:00 頃（詳細な時間は未定）
- 場所：沖縄科学技術大学院大学（OIST）シーサイドハウス セミナールーム（収容人数 65 名）
- 研究会同様、シーサイドハウスの宿泊施設（最大 36 名）は基本的には学生向けとする。近隣のホテルに宿泊することになる場合、交通手段も各自で準備して欲しい。ジャンボタクシー等を確保するかどうかは実行委員で検討中である。

[研究会運営関連]

B-4. Web・サーバーの管理について

Web 管理担当者の宮本氏（広大）より、現在の Web・サーバー管理について説明があった。

- 2012 年 6 月より管理者が以下の体制に変わっている。
サーバー管理：倉田 進 → 佐藤政則（KEK 入射器）
Web 管理：安東愛之輔 → 宮本 篤（広大放射光）
- ビーム物理通信ホームページの会員名簿ページの内容を最新のものに更新した。なお、前回総会での承認事項に沿って名前と所属のみを掲載している。
- ビーム物理通信ホームページの会員異動ページに新会員・新所属（異動）・退会情報を約 1 ヶ月の更新期間を設けて掲載している。
- 担当者募集：Web 担当者を 2 名に増やしたい。海外からはアクセスできないなど、1 名では問題がある。希望者は宮本氏までメールにて連絡のこと。

B-5. 入会・退会・会員名簿の取扱等について

会員名簿管理担当の藤田氏（JASRI）より入会・退会・会員名簿の取扱等について説明があり、以下のように議論がなされた。

- 「ビーム物理研究会 入会申込書」には個人情報に記載する欄があり、管理が難しい。個人情報を必要としなければ個人情報欄を削除してはどうか？

⇒自宅電話番号欄などは削除する方向で承認された。ただし、ビーム物理研究会は機関に所属していない個人であっても入会が可能であるため、研究会からの連絡先として、入会申し込み時に所属機関か自宅の連絡先を記入してもらう書式へと変更するものとするのが承認された。

- 入会申込書内に「入会申込書に記載頂いた情報は研究会としての用途以外には使用致しません」といった趣旨の注意書きを記載するという提案が承認された。
- 研究会からのメールを送信すると大量のエラーメッセージが届き、メール管理に労力が強いられている。メールが不通になった会員の取り扱いはどうすべきか？

⇒一定期間連絡がつかなくなった会員は退会扱いとし、メーリングリストと会員名簿への登録をそれぞれ解除するとしてはどうか。なお、退会までの期間はエラーメッセージを閲覧可能な名簿担当者に一任してよいのではないかと、などの意見が出た。議論の結果、研究会ホームページの会員名簿ページ等に「一定期間連絡がつかなくなった会員は退会扱いとし、メーリングリストと会員名簿への登録をそれぞれ解除されることがありますので、連絡先変更の際にはご連絡ください」といった注意書きを記載して名簿担当者の判断で対応することが承認された。

- すでに保管済みの個人情報を含む紙媒体の入会申込書の取り扱いはどうすべきか？

⇒保管スペースに余地がある現段階では従来通り SPring-8 加速器部門事務室にて保管を続けるものとする。

- 会員名簿の取り扱いに関して、名簿使用の基準などは設けられないか？

⇒外部に名簿情報の取り扱い例としては、PTEP パンフレットの配布がある。配布に際しては業者から配送先を指定するために会員名簿情報の開示請求があった。業者への名簿情報提供前に会長に了解を得たうえで、会員氏名と所属機関のみを業者に提供した。ビーム物理研究会内部での取り扱いは問題ないだろう。外部への取り扱いに関しては、想定が困難であるため、個々の事案に対して執行部内でその都度是非を判断するものとする。

- 退会に関して？

⇒亡くなられた際には研究会が確認できた時点で退会扱いとする。

- 事務局宛のメール (beam-sec@spring8.or.jp) はどのように対応すべきか？

⇒これまで beam-sec 宛に来た研究会の案内の記載依頼は web 管理者が気付いた時点で web に案内を掲載していた。beam-sec は世話人や役員などに届く。メーリングリストによる案内は気づいた世話人が対応するという点でよいのではないかと、との意見が出た。議論の結果、メーリングリストによる案内に関しては、複数の世話人が重複した情報を流してしまう可能性もあることから、

出来る限り藤田氏（JASRI）の方から配信頂ける事になった。

- 会費に関する会則の一部（細則 1、会員および会費 「...会員は世話人会が会費の徴集を決定した場合にはそれに従わなければならない...」）に対して問い合わせがあった。表現を帰る事はできないか？

⇒会費はそもそも当分徴収しないとのことだったと思われる。会費を徴収するとその取り扱いをするための労力が大きくなる。この文言を入れておかないと、会費の徴集を決定するためには会員全員の了解を得る必要も出てくる事になりかねないが、前述の連絡のとれない会員の存在が問題になりそうである。会費の徴集が決定された場合に、細則にこのような文言があっても、退会することで会費を支払う義務はなくなるのであって退会を禁止してはいない、といった多数の意見が出た。この件に関しては、次回総会に持ち越して細則の表現の変更を審議することが承認された。

その他の議論・コメント

- 入会申込書は現在郵送のみで受け付けている。メール添付での申し込みも許可してはどうか？

⇒入会申込書内の紹介者名記載欄は、空白のままでも受け付けている。また、空白の場合にはメールベースで会員に紹介者を募っているのが現状であり、申し込みが紙媒体のみで完結しているわけではない。なお、新たな入会者の情報は紹介者の情報とともにメーリングリストに流れる。入会の承認はメールで行われる。これらのことから、今後は紙媒体の郵送のみではなく、メールに入会申込書を添付しての受付も許可する事が承認された。

C. 日本加速器学会関連

特になし。

3 その他

3-1. ビーム物理の後継者育成に関して

平田氏（総研大）から今インフォーマルミーティングの議題としてビーム物理の後継者育成について提起されたことが紹介された。様々な議論がなされ多くのコメントが得られた。今回の議事録を引き継いで今後も議論を続ける事とした。

議論・コメント

- ビーム物理若手の会は若手の育成を目指して開始したものである。従って、ビーム物理研究会が若手育成を目指して行っている活動がすでにあると言えるのではないか。今後も会員の皆様で若手の会を盛り上げて頂くことで、若手の育成をという目的にさらに則した会へと発展できると思う。なお、今年の若手

の会で講義をして頂ける講師の方はまだ決定しておらず、現在も募集中である。また、例年講師の方を探すのは大変であり、多くの方々に立候補して頂けると助かる。

- 物理学会関連で行われている高校生を対象とした活動は啓蒙活動にあたり、後継者育成と啓蒙活動の 2 点が今回提起されている。ビーム物理という分野の発展を目指した若手の会は後継者育成を目指した活動である。シニア研究者が世界的な成果を挙げるという事は啓蒙活動になるのではないか。
- 現時点では、ビーム物理若手の会はビーム物理の分野にすでに何らかの関係がある人が参加している。学部 2、3 年生など一般の学生にビーム物理の存在を周知するための啓蒙活動も必要であると思う。サマーチャレンジなどが啓蒙活動の例にあたるのではないか。
- 「成功した高エネルギー物理」とは何を持って成功したといえるのか？⇒コミュニティの規模がノーベル賞受賞後に拡大した事、高エネルギー物理という研究分野が目立った事ではないか。学生がその研究分野を目指すためにはその研究分野が目立つ事が必要だと思う。例えばノーベル賞受賞後に素粒子の研究やニュートリノの研究が脚光を浴び目立っている。
- 大学にその研究分野の入口が無いとその分野に進む学生は少ないと思われる。現在の大学でのこのビーム物理のアクティビティはどのような状況なのか？⇒学部講義の中でビーム物理に関する話題を話すことでビーム物理に触れてもらうということを行っている。ブルーボックス等で加速器等に興味を持った学生もいるので、そのような学生を引き込むための活動を考えるのはいいかもしれないが、ビーム物理研究会単体で行うのは現段階では容易ではない。物理学会などより大きな組織が行うイベントに協力して活動を行う事が現実的であると思う。また、ANL などでは女子学生だけを集めたイベントも開催されている。この分野に女性研究者を育てることに一定の役割を果たしているのではないか。しかしながら、ビーム物理研究会は ANL のようにハードを持つ組織ではなくソフトウェア的な存在であり、研究会単体で ANL のような活動を行う事は難しいのではないか。ANL の例は大学や研究機関が行うオープンキャンパスやサマースクールに相当するものと思われる。従って、関係機関と連携してそのような活動を行う事は可能だと思うが、研究会単体で行うことは困難ではないか。

3-2. 黒田氏（産総研）の代理で坂上氏（早大）より、PTEP（Progress of Theoretical and Experimental Physics）の概要と現状についての説明がなされた。

- ビーム物理研究会の名簿から 50 名程を抽出してパンフレットを送付した。
- ICFA Beam Dynamics Panel のメンバー 22 名にもパンフレットを送付した。

- 前回の総会で質問のあった投稿料補助を受けるための具体的な方法に関して、MLを用いて具体的な方法を会員に周知した。オンライン投稿の際に **Article Processing Charge(APC)**の項目で **Waiver request** を選択することで原則投稿料が補助される。ぜひこれを活用して沢山の方に投稿して頂きたい。

3-3. 次回の総会・世話人会について

次回の総会は2014年3月27日(木)から30日(日)に開催され日本物理学会第69回年次大会(東海大学)の会期中に行う。世話人会は2014年8月頃に開催される第11回日本加速器学会年会の会期中に行うことが確認された。

以上